



鳥居が並ぶ栗津稲生神社。社殿は路切の向こうにある。

島根県 一畑電車

北松江線・大社線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第1回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか

スイッチバックに 秘められた哀史

寺社に関する雑文を書くことをなりわいとしてきた筆者は、「ばたでん」こと一畑電車は出雲大社とセットになって記憶に刻みつけられている。

レトロモダンな出雲大社前駅の駅舎を出て、参詣者で賑わう参道を歩いていくと、ほどなく二の鳥居の堂々たる姿が見えてくる……。参拝への気持ちを高めてくれる、ちょうどよいアプローチだ。

こういったこともあり、一畑電車は出雲大社への参詣者輸送を目的として敷設されたものと思ひ込んでいた。しかし、そうではなかった。

一畑電車の北松江線に乗ったことのある方はご存じだと思うが、この路線には1カ所奇妙なところがある。平地なのにスイッチバックすることだ。

一畑電車が出雲今市（現・電鉄出雲市）―雲州平田間で営業運転を開始したのは大正3年（1914）のこと。当時は一畑軽便鉄道といった。

翌年には一畑まで延伸されたのだが、この一畑駅、残念ながら今は存在していない。どこにあったのかというと、1300段ある一畑薬師（一畑寺）の参道下であった。

一畑薬師は平安時代の寛平6年（894）に創建された古刹で、古くから目の薬師様として信仰を集めてきた。

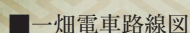


聖靈教會 (台北)

A photograph of a red and white passenger train stopped at a station platform. The platform has a large, dark, angled roof structure. The train is on tracks, and the background shows a clear blue sky and some greenery.



一畑薬師



Ichibata Electric Railway Co., Ltd.

<http://www.ichibata.co.jp/railway/>



日本で7番目に大きい湖。北松江線は18kmにわたってその畔を走る。ラムサール条約に登録された生態系が豊かな湖であり、夕日の名所でもある。また、温泉地としても知られる。

それまで徒歩しか参詣手段がなかった一

昭和3年（1927）には北松江（現・

しかし、戦争が一畑電車の未来をねじ曲

小境灘（現・一畑口）――一畑間が不要不急

この結果、出雲今市から一畑へ向かって

もちろん、これによって一畑電車が社名

小境灘を一畑口と変更して一畑薬師への

1960 年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究家。『Oからわかる神道のすべて』（三笠書房）、『総図解 よくわかる日本の神社』（KADOKAWA）、『諸国神社 一宮・二宮・三宮』（山川出版社）、『歴史さんぽ 東京の神社・お寺めぐり』『神々ばかりに許される地 秘境神社めぐり』『聖地鉄道めぐり』（以上、G.B.）ほか著書多数。